諸宗教対話委員会

神に向かって皆がより深く回心する

やっとコロナ禍が収まり、再び諸宗教対話委員会は通常通り今年度の活動計画を立てることができる運びとなった。今年度のプログラムは前半と後半に分かれており、前半は４月～６月に３つのイベントが行われた。後半は11月から翌年の２月に４つのイベントを予定している。

４月のイベントは、仏様の生誕祭（花祭り）に因んで、仏教との対話に充てられた。今回は臨済禅に注目して、４月29日に臨済宗妙心寺派の梅松院を訪問した。参加者は20人以上だった。

梅松院の副住職であられる本多道隆様と御家族の皆さまが私たちを温かく迎え容れ、本殿に案内してくださった。挨拶の後、本多副住職がお釈迦様への御勤めをあげてくださった。その後、カトリックの祈りが行われ、次に、大阪大司教・前田万葉枢機卿猊下の代理として当委員会委員長ロッコ神父が挨拶し、教皇庁諸宗教対話省から仏教の方々への「花まつりに際してのメッセージ」を本多副住職に手渡した。その後、本多副住職が臨済禅について講演され、それをきっかけに、キリスト教と仏教の霊性についてのたいへん興味深い対話が展開された。

５月のイベントは、司教館で諸宗教対話に関するカトリック教会の教えについての講演会であった。講師は当委員会委員長ロッコ神父、テーマは「新約聖書と諸宗教対話」だった。これは２０１９年に行われた「旧約聖書と諸宗教対話」の続きである。講師は聖書からいくつかの箇所を読み上げ、イエスや初代教会が異邦人に対してどのような態度を取ったかを説明し、キリスト者が他宗教の信者に対してどのような考えや態度を取るべきかを考察した。参加者は約45人だった。その中にはプロテスタント、モルモン教徒、立正佼成会や白光真宏会などの方々もおられた。

６月のイベントは、日本の新宗教との対話として１８９２年に創立された「大本」の大阪本苑を訪問した。参加者は約25人だった。４週目の土曜日だったため、「乙姫様月次祭」が執り行われており、60人以上の大本信者方々と一緒に祭典に参列することができた。１時間ほどの祭典の後、当委員会委員長が訪問団を紹介し、諸宗教対話委員会の目的や活動についての短い説明をした。次いで、本苑長伊藤忠茂様から「大本」とその活動についてのお話しを伺った。質疑応答の時間が続き、最後に、大本の方々との交流の時間を持ち、解散した。大本の方々の歓迎は本当に温かかったです。

当委員会が始まってこれまでの６年間、毎回の活動において諸宗教対話について学ぶことができ、他宗教の方々と出会う機会となり、多くの祝福がありました。今年度のプログラムの後半はパンフレットに記載されている通り、11月から２月まで行われます。多くの方々が参加してくださり、諸宗教対話を通して神様からの多くの祝福を分かち合えることを心より願っております。

（文　諸宗教対話委員会　委員長 ロッコビビアーノ神父）

6月に行われた堅信式

使命は与えられる その機会をのがさぬように

神戸中央教会・藤井寺教会

６月18日（日）10時、カトリック神戸中央教会で、前田万葉大司教とコンスタンス・コンスルタ神父、ブインガ・ブレーズ神父により、コロナに明け暮れた日々からようやく解放され、久しぶりに日英合同のバイリンガルミサによる堅信式が行われた。

普段目にすることのないミトラを被りバクルスを持って入堂される前田大司教を迎えて、楕円形の内陣を半円状に取り囲む19人の受堅者は、緊張した面持ちで臨んでいた。

前田大司教は式の中で受堅者に向けて言葉を送った。「堅信式は卒業式ではありません。キリストの証し人としてこれからの人生を歩む始業式のようなものです。まわりの人たちを活かし、互いに仕え合い、互いを大切にし合うことのできる関係を築くことで、イエス様を伝えていくという自覚を持って歩みましょう」。約250人の信徒に見守られ、式の終了後は祝賀会の開始が大幅に遅れるほど大司教様を囲んでの記念撮影が行われた。

神戸中央教会

【主催者の感想】 対象者全員が無事にゆるしの秘跡を受けて受堅できたことは喜ばしいことではありますが、反面教会学校の初聖体クラスで学んで以来、学びの機会のなかった中学・高校生生活は共同体のエアポケットであることが鮮明に浮かび上がりました。この時期の共同体への参加と迎え入れ方の工夫が急務であることが今後の大きな課題となりました。

【受堅者の感想】 堅信の準備会が始まった時、神様のことを何も知らないなと思った私たちでしたが、リーダーのお話しを聞いて学んでいく内に少しずつ理解できるようになり、日々の幸せを感謝できるようになりました。これからも神様と共に歩むことができますようにと願っています。

（文　山野真美子）

６月25日（日）、前田万葉大司教とチョン・ディン・ハイ神父の共同司式で、合同堅信式が行われた。受堅者は10人（藤井寺7人・なみはや2人・住之江1人）

前田万葉大司教はミサ説教で、堅信とはキリストの証人になる役割が与えられると話され、聖ペトロの取り次ぎを願いながら聖霊の秘跡と言われる堅信を受ける人たちへの恵みを祝し、その使命を生きるようにと、励ましとして「仕合わせのキリストの香や　ペトロ祭」「受堅者よともにあかしを　ペトロ祭」という二つの句を詠まれた。キリストが弟子たちの、真っ先にペトロの足を洗い、互いに仕え合うようにとおっしゃったように、聖香油の香り、そのようにキリストの香りがするような仕え合う生き方をしていってほしいということを話された。日本語の「しあわせ」は、この仕え合う「仕合わせ」から生まれてきたと言われることと、その「しあわせ」は非常に聖書に近いということも紹介された。

藤井寺教会

【主催者の感想】 この日は藤井寺教会の保護聖人である聖ペトロのお祝いを兼ねて行われた。

藤井寺教会の受堅者は、幼稚園で、また教会でお世話になったイエスのカリタス修道会のシスターと堅信式に向けて勉強会を行ってきた。

堅信式終了後、コロナ禍でできなかったパーティーに約100人が参加。ベトナム料理等で堅信式のお恵みを分かち合った。

【受堅者のことば】 私たちは、小さい時から洗礼のお恵みを受けて教会に親しんでいましたが、今堅信の秘跡のお恵みを受けることができて、より一層信仰が強められました。いただいたお恵みに感謝して、これからは自覚を持った一人前のカトリック信者としてがんばっていきたいと思います。

（文　藤井寺教会　垣崎真奈美）